



九重あばれ獅子 元旦の初舞い

12月定例会

- 24年度補正予算及び追加議案 P.2
- 常任委員会報告 P.3
- 決算審査報告 P.4~5
- 一般質問 9名 P.6~9
- わたしのひとこと P.11

飯田湯沢 古庄 要子
野矢 日野 裕充



議会だより

このえ

No.100 2013.1.17発行



豊後七福神会 第24回巡行

発行／九重町議会

編集／議会広報特別委員会
平成25年1月17日
〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
メールアドレス(gikai@town.kokonoe.lg.jp)

第4回定例会

謹賀新年



本定例会は12月6日から21日までの16日間開催され、議案18件(別途追加議案1件)、陳情2件、選挙管理委員及び補充員の選挙を慎重に審議しました。

平成24年度 一般会計補正予算 (第6号)	補正額	9369万円
	補正後予算	75億6470万円

- (歳出)
- 自立支援費(障害者介護・訓練等給付費の増) (3216万円)
 - 本人通知事前登録管理システム導入委託 (315万円)
 - 工事請負費(3か所)
 - ・相口線(河川部護岸工の減) (▲1600万円)
 - ・川西木納水線(岩掘削工事の増) (1000万円)
 - ・滝上線(河川部護岸工の増) (1030万円)
 - このえ緑陽中学校開校準備経費等 (1340万円)
 - 町有施設整備基金積立金 (8000万円)

平成24年度 一般会計補正予算 (第7号)	補正額	5320万円
	補正後予算	76億1791万円

- (歳出)
- コミバス購入(4WD・14人乗り) (400万円)
 - 軽自動車購入(4WD・公民館・地区協議会支援用) (580万円)
 - 活きいきランド施設周辺防犯対策事業(5か所・防犯カメラ等設置) (950万円)
 - 測量設計委託(3路線)
 - ・中巢野矢線(L=300m、W=4m) (390万円)
 - ・平家山支線(L=420m、W=5m) (670万円)
 - ・梅木津留下畑線(L=300m、W=4m) (480万円)
 - 工事請負費(1路線)
 - ・四季彩ロード線舗装工事(L=260m、W=7m) (650万円)
 - 給食運搬車購入(2台) (1260万円)

▶選挙管理委員

あな	い	いわ	お	くま	がえ	かおる
穴	井	岩	夫	熊	谷	薫
たけ	いし	ひろ	み	や	の	ふく
武	石	裕	臣	矢	野	福
						美
						美

▶補充員

あ	そう	なり	こ	き	とう	のり	ゆき
麻	生	成	子	佐	藤	徳	幸
さ	とう	ひで	のぶ	た	なか	とく	み
佐	藤	秀	信	田	中	徳	美

総務建設産業常任委員会 審査報告

議案 4件
陳情 1件

可決された案件

議案第75号

九重町暴力団排除条例の一部改正については、法律の「第32条の2第1項」が「第33条の3第1項」に条ずれをおこしたため、引用部分について改正するものであり、適当であるとの結論に達しました。

では、

議案第76号

大分県が指定特定非営利活動法人の指定の手續き等に関する条例を平成24年7月6日に公布したことに伴い行うもので、個人住民税の寄付金税額控除の対象法人として決定するための基準や手段を定めたものであり、適当であるとの結論に達しました。

議案第77号

九重町過疎地域自立促進計画の一部変更について

◎玖珠九重農業協同組合トマト選果場整備助成事業

◎平家山支線道路改良舗装事業

◎室園線道路改良舗装事業

◎筋湯牧ノ戸線災害防除事業

◎恵良粟野線粟野橋橋梁長寿命化対策改修事業

◎恵良粟野線粟野小橋橋梁長寿命化対策改修事業

◎楮原線楮原橋橋梁長寿命化対策改修事業

◎無田須久保線無田須久保橋橋梁長寿命化対策改修事業

◎庁舎議場音響設備等改修事業

◎高齢者等見守り対策システム運営事業

◎富迫集会所改築事業

いずれの事業も、産業を振興し、交通通信連絡を

確保するとともに、住民の生活の安定と福祉の向上を図るために必要なもので、今回「九重町過疎地域自立促進計画」に加えるものであり、適当であるとの結論に達しました。

議案第78号

定住促進住宅に係る住宅用地等の貸与及び譲渡に関する条例の制定については、町有財産の無償譲渡については、地方自治法第237条第2項において「条例又は議会の議決による場合」と規定されており、同規定に基づき本条例を定めるものであり、適当であるとの結論に達しました。

陳情

川下北 区長 江藤 茂氏からの 町道編入を求める陳情については、県

受付番号第7号

道より室園公民館を経由し県道に繋がるまでの道路は町道として認定されていますが、公民館の分岐点から約20mの間は町有地でありながら、町道として認定されていません。また、この道路沿いには防火水槽もあり、火災時には消防車両も通行する公共性の高い道路であり、陳情の趣旨は理解できることから、採択することで意見の一致をみました。



東飯田、室園からの陳情（現地視察）

教育民生観光常任委員会 審査報告

陳情 1件

陳情

受付番号第6号

大分県ホッケー協会 会長 吉光幸夫氏からの「このえ緑陽中学校にホッケー部（男女）の創設を求める陳情」については、九重町には三大大会オリンピック出場選手もあり、一村一スポーツとして町も取り組んでおります。郡内の高校には、県内で唯一のホッケー部もあり、全国に通用する選手を育てるためにも小、中学校から競技をスタートできる環境作りが大切であり、陳情の趣旨は理解できます。しかし、中学校の部活動については、生徒数や学校現場の状況に左右され、保護者の考えや指導者の確保等の課題も多く、特定の競技を新たに部活動として創設することについては今後、慎重な議論を重ねる必要があることから、継続審査にする事としました。

視察

北代定住促進住宅 遺跡発掘現場視察



木の香りただよ完成間近い現場



来年度工事着工。土器、矢尻等出土されておりました。

借金は57万円

平成23年度、一般会計は歳入総額**73億65276千円**で前年度対比で**7.26%増**、歳出総額は**69億17931千円**で前年度より、**7.63%減**となっています。

年度	項目	実質収支比率 ※1	実質公債比率 ※2	自主財源比率 ※3	経常収支比率 ※4
平成22年度		9.63%	5.7%	36.6%	84.6%
平成23年度		9.62%	5.7%	35.2%	84.3%

※1 実質収支比率とは

実質収支比率とは、標準財政規模に対する実質収支の割合をいいます。実質収支は、その年度に属すべき収入と支出の実質的な差額（形式収支から繰越すべき財源を差し引いたもの）、つまり市町村の「黒字」または「赤字」を意味します。

一般的には、3～5%程度が望ましいとされています。

*実質収支(%)=実質収支額÷標準財政規模

H23九重町では、(389,209千円)÷(4,044,405千円)=9.62%となります。

※2 実質公債比率とは

兼業農家に例えると、給料が主な収入の兼業農家の場合、農機具のローン返済に農業収入だけで無く給料の収入を充てる場合もあるかと…。生活費のローンと農業用のローンを合計した額が標準的な給料（基準となる数値がある）に対して、どれくらいあるかを見たものに似ています。

※3 自主財源比率とは

町が自分の力で収入にできる財源で、例えば地方税や施設の使用料、財産収入、寄付金などがあります。これが町の総収入（国や県から来るもの等）のうち、どのくらいあるのかを表したものです。

※4 経常収支比率とは

家計に例えると、毎月の給料に対して食費、家賃、公共料金の基本料、ローン返済など決まって支払わなければならない経費の割合のようなものです。

この割合が高ければ高いほど、やりくりが苦しくなりますよね。

改善又は検討を求めるもの

歳入

について、一般会計の町税、使用料、及び諸収入等の収入未済額が115,852千円と前年度より23,656千円減少しています。これは担当職員の努力に加え、県の特別滞納整理室から職員派遣を受け入れ、徴収が困難な滞納者に対し預貯金や不動産「差押え」等滞納処分を共同で処理できたことによると考えられますが、長引く景気低迷で依然として厳しい状況もあり効率的な滞納整理を進めること、入湯税については、収入未済額が増額しており引き続き収納率の向上に努めていただきたい。

また、税収で本町が高い徴収率を誇っているのは、納税組合の存在が大きく、ここ数年続く納税組合の解散の歯止めには行政をあげて取り組みを期待します。

歳出

については、歳出予算の目的どおり適正に執行されたか、成果が十分に達成されたかを審査しました。主に委託料や補助金、工事請負費、扶助費等の公共性、公益性、平等性を審査し指摘事項は、各担当課に伝え改善を求めております。

付託された案件については、自律のまちづくりを目指す当町においてさらなる行政効果や投資効果が最大限上がるよう要望し、審査結果の報告とします。

町民一人あたりの 貯金は62万円

基金

貯金はこれだけ

(単位：千円)

基金名	22年度末残高	23年度末残高
財政調整基金	1,058,338	1,059,409
減債基金	1,935,727	1,936,978
町有施設整備基金	1,664,202	2,243,338
ふるさと創生事業基金	499,862	477,505
福祉基金	207,456	207,456
地域振興基金	28,409	28,429
環境整備基金	50,970	51,007
ふるさと農村活性化基金	10,737	10,744
スクールバス事業基金	56,942	56,939
足立敬老基金	10,000	10,000
飯田小学校図書整備基金	9,000	8,300
飯田中学校図書整備基金	9,000	8,000
土地開発基金	139,741	139,842
特別導入事業基金	37,700	36,772
用品調達基金	10,000	10,000
災害住宅資金貸付基金	3,000	3,000
証紙購買基金	1,000	1,000
小計	5,732,084	6,288,719
飯田高原診療所施設整備基金	6,554	6,559
国民健康保険基金	85,796	85,858
高額療養費貸付基金	5,000	5,000
水道基金	178,612	180,938
介護保険基金	11,061	11,069
介護従事者処遇改善特例交付金	5,225	0
小計	292,248	289,424
合計	6,024,332	6,578,143

地方債

借金はこれだけ

(単位：千円)

資金区分	借入先	22年度末残高	23年度末残高
財政資金	財政融資資金	4,372,354	4,923,175
	旧郵政公社資金	822,797	685,732
	小計	5,195,151	5,608,907
その他	市中銀行等	168,198	143,731
	地方公共団体金融機関	271,718	258,033
	小計	439,916	401,764
合計		5,635,067	6,010,671

収入未済総額 (滞納金)

(単位：千円)

税目	22年度末	23年度末	増減
町税	95,586	92,177	△3,409
分担金・負担金	5,346	3,174	△2,172
使用料・手数料	12,683	11,800	△883
財産収入	4,308	4,693	385
諸収入	21,586	4,008	△17,578
合計	139,509	115,852	△23,657

ずばり町政を問う 夜間議会開催



池部 俊慈



定住二万人プロジェクト 具体策は

作業チームにて検討中

池部 10年後、九重町の人口予測は8800人、総合計画に打ち出した、定住一万人を死守する為の意気込みを問う。

町長 定住一万人確保は非常に厳しい状況の中、行政と町民が課題を共有し、無駄をはぶき簡素にて住みたくなる町づくり、そのためにプロジェクトを作成して前進している。日本一を目指すという意気込みを示したものの。

池部 各課、定住一万人に向けた取組状況は。
企画調整課長 空家紹介、民間住宅助成、家屋改修事業、結婚支援等を行っている。我町に住みたいとの要望は多い。
ふれあい生活課長 出産祝い、結婚祝い、子育て支援、医療費助成等を行っている。今後は健康と福

祉も重視し、各種補助事業により子どもから高齢者まで安心して住める町を目指す。

社会教育課長 文化センター事業、公民館事業により、文化事業を広く町民へ提供していきたい。

農林課長 各種補助事業を活用し、集落営農組織化を推進、戸別所得補償制度の拡充、人・農地プランの推進等に取り組み、

商工観光課長 課としては2万人の交流人口を重視。
滞在型の観光客を増やすために、新しい取り組みを行う。見る観光だけでなく、体験型観光に力をいれたい。

● 計画の進捗状況は

池部 具体的にプロジェクト作業チームの状況は。

町長 20を超える作業班から提案があり、現在管理職で、25年から始める項目を選定中である。

池部 現在検討中の計画を、どの様に実施するのか。
町長 多岐に渡るため、計画を見極め、10年間の取り組みとして随時、実行していく。



九重町
第4次総合計画

佐藤 博美



宿泊客の増が必要 対策は

情報発信とサービス向上

佐藤 我町にとって観光振興は大きな課題、観光客の中で町内施設宿泊者の実績はどうか。

町長 推計宿泊者は毎年、減少しているのが現実。

佐藤 宿泊者を増やす事が重要、厳しい状況の中九重町の課題は何か。

町長 観光客は社会情勢に、大きく左右される。

効果的な情報発信のターゲットを的確に判断する。また、自然に食をからめた、地元資源を生かす体験型も必要である。

佐藤 町全体としての観光イメージが無い。案内板も含め、各観光地の連携、一体感が必要。

町長 案内板は整備中、今後の方向性として、外国人観光客誘致、スポーツ合宿、自然を生かす等を行うが、大切な事は受け入れる側のサービス向上

上が不可欠である。サービス向上講座にも取り組んでいる。

佐藤 各々の観光地ではなく、町が一本になった観光発信力、町全体としての取組みを望む。

山間部の農地確保の対応は

佐藤 農業従事者の高齢化が著しい中、特に中山間地域の農地確保をどう対応するのか。

集落の話し合い

町長 現在、毎年農地の利用状況調査を行っている。耕作放棄地を農地バンクに登録して希望者に斡旋するシステムを作っていく。また、厳しい壁もあるが、人・農地プランを広げていきたい。担い手、土地集約など集落での話し合いが基本であ



観光協会主催の接遇セミナー

るが、集落協定している地区へも働きかけたい。

佐藤 地域に若者（担い手）が居ない集落が問題。集落の将来を集落の人々が語り合う場を作るべき。

町長 人・農地プランは、取り組みづらい、との意見も多い。しかし、5年後、10年後の展望を描くため人と農地の問題について県と協力しながら、地域の方々にも提案していきたい。

坂本 憲治



主要農産物販売の実績は

減少傾向にある

坂本 平成24年度、主要農産物の販売実績はどうなっているのか。

町長 （トマト・牛・梨・椎茸・ブルーベリー・白ネギ・花・米について詳しく実績報告）、JA出荷分に限った数字であるが、全体的に量、販売額、共に減少傾向にある。

坂本 新規参入、規模拡大への対応はできているのか。

町長 支援策については随時、県と協力して行っていく。

坂本 現状維持が精一杯の感がある。成長戦略への様に取り組むのか。

町長 担当課の組織も今年からグループ分けして体制を整えた。部会への支援を中心に、JA・関係機関との連携を深める。



第10回全国和牛能力共進会（長崎県）
県代表玖珠郡チーム
12月子牛市場 約5万円の高値販売

坂本 担当課だけで、対応が本当に出来るのか。

町長 日本の経済も、高齢化の現実も非常に厳しい。JA、県との連携が不足しているのも事実。もつと連携できる体制を目指していきたい。

坂本 主要作物である、米の販売戦略が不可欠。そのためには、町単独の取り組みでは無理がある。

町長 特別栽培米の取り組みを行っている。高値で販売している所は、地域性もある。先進地研修も行い、当地で最善の方法を探っていきたい。また、JA、県との連携をしていきたい。

坂本 県に支援を求め、議論の場を設けることを強く要望する。

江藤 一幸



農業と観光 原因と課題は

集中と選択

● ブルーベリー

江藤 ブルーベリーの振興、平成15年から5カ年計画で15ヘクタール作付し、収入も反64万で、9千6百万加工も入れて1億円産業を目指すと答弁、しかし成果が出ていない。

● 集中と選択

町長 ブルーベリーは、半分以上農協外出荷されると思うが、玖珠、湯布院の『道の駅』や『ふるさと館』、ジャムにして自分で売る方や摘み取り園も結構ある。かなりの価格で売れ、生産量もあると思う。

江藤 観光統計調査で、平成19年と21年を比較したとき、日田市は約2万8千人の宿泊減、九重町は10万人の宿泊減この数



字は大きい、九重町が10万も減っているのは、何かそこに原因や課題があるのでは…。

課題や問題を克服するにはどうするのか、色々な事業をやっているが、成果につながっていない。

町長 観光宿泊者数は伸び悩み、減少していることが問題で、いかに増やすかが課題である。情報収集と効果的な宣伝と、「温かくもてなす」心のこもったサービス、質的向上が大事で観光協会と一緒に研鑽を積み、現状より悪くならないように、財政規律を保ち集中と選択で事業を進めていく。

【宿泊客数の推移】(県宿泊客統計、単位：人泊)

	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年(速報値)	減少数
日田市	285,012	264,930	237,360	249,494	256,742	△ 28,270
うち外国人	7,521	14,155	6,145	130,102	-	-
九重町	240,594	176,490	145,358	148,044	140,116	△ 100,478
うち外国人	3,169	6,882	720	8,459	-	-

藤原 三治



雪害対策は十分か

区長・業者と協力

藤原 ビニールハウスの積雪被害の防止策、支援はどうなっているのか。

町長 被害に対する補助が無いので、生産者自身に収穫後ビニールを取り除く、補強をする等の指導をしながら、併せて気象情報の提供に努める。

藤原 情報提供を、どの様に徹底するのか。

町長 現在、JAの部会と連携しているが、今後はケーブルテレビの活用も検討していく。

藤原 道路の除雪作業を早めに手当てすべき。地元業者との連携はどうか。

町長 公道が長すぎて、全ての道を行政が対応するのは無理。区長への対応をはじめ、業者と協力も行っている。

藤原 毎年、凍結防止用の塩カリに多額の費用がかかっている。除雪

の方に力を入れるべきでは。

町長 バス路線は10cmをめぐりに除雪をし、その他の路線も、除雪車で充分でない所に塩カリを散布している。

藤原 各地区の機械所有者、区長との関わりは充分か。

町長 業者にも、協力を頂いている。区長へは、区長会を通じて支援策の説明や協力依頼を行っている。



町内宿泊施設の地熱発電 (990kw)

● 再生エネルギーの取組みは

藤原 再生エネルギーの取組みを、どう考えるか

● 町単独では 適当でない

町長 我町は、電力自給率が全国一であるが、再生エネルギーについては、町単位で、取り組みべきものではない。

藤原 松木ダム小水力発電の現状は。

町長 今年度は設計、来年度に向け、水利権等を交渉中であり、事業実施は26年度となっている。

藤原 事業に対して、町はどのように関わるのか。

町長 この事業で発電したものは、ダムの維持管理のために使うものであり、それ以外には使えない。

土井眞一郎



地区協議会の役割は

共助の分野を

土井 「日本一の田舎づくり」精神論が主であり具体的な意味が分かりにくい。

町長 町民が町に誇りを持って来た、具体的ではないが、日本一を目指す町民の気持ちや意気込みが大切。

土井 地域を活性化するための地区協議会。行政との役割分担は。

町長 地区協議会は、25年度本格実施に向け作業中、役割分担については、公助にあたる部分は、当然行政が責任を持ち、地域の活性化や、見守り等の共助にあたる部分を、地区協議会に担って頂きたい。

土井 今の状況では、地区協議会の負担、責任が重いのではないかと。

町長 育成協、体協、地区同啓等も、協議会へ移行したい。



どろんこ祭り

行したい。地区によって協議会の温度差もあるため、当分の間は行政が支援を続けていく。

町長 国への期待も大きいですが、町としても必要。

現在、予算の査定中であるが、公共事業の有り方も含め、町内需要の拡大を図っていきたい。

土井 大吊橋の使用料、基金の利息を有効活用する為、町民へ還元すべき。

町長 6年経過し、運用益は借入金返済を最優先する考え方。今後は、中学跡地等の町有施設の整備が山積しており、町有施設整備基金へ積み込まれる。

土井 補助金のあり方も現状維持で業務の丸投げと受け止められないかと。

町長 補助金については、スタートの年でもあり、実績や内容を見ながら増額も含め検討していく。

25年度、町の景気対策は

土井 25年度、町単独の景気対策にどう取り組むか。

町長 ソフト事業面を一般財源で充てる事によって、ハード面への負担を平等化する事ができ、結果的に町民サービスにつながる。

日野 康志



組織の育成と人材の育成を！

教育委員会の活動を全面に

日野 教育委員会組織での、教育委員長と教育長の関係は。

教育長 教育委員会の組織は、非常勤の教育委員と常勤の教育長で組織されている。教育委員会は、あくまでも合議制となっており、委員会が審議した内容を、事務局の責任者である教育長が実施する組織である。

日野 教育委員会の活動は、一般の住民から見えにくいと言われているが。

教育長 非常勤の教育委員は、教育現場から一定の距離を保ちつつ、さまざまな立場や人生経験から教育に対して、多面的多角的に民意を反映して、意見をいただいている。

日野 教育委員会では、頻繁に会議を開いているが、報酬は見合っているのか。

町長 教育委員会事務局より、報酬の見直し提案は出ているが、これまでは自己律推進計画や財政再建計画で経費の削減等行ってきた経緯もあり、これまでも協議を重ねてきた。

現状では、結論は出ていないが、来年に向けて玖珠町との町長会で、全ての委員会について見直しを含めて検討課題とさせていただきます。

日野 秋田方式の完結型授業の取組み状況と宮崎県の五ヶ瀬町方式の調査結果は。また、子どもたちの様子は。

教育長 秋田方式の授業は、どの学校現場も1時間完結型授業方式を取り入れている。導入、展開、まとめという3つのキーワードで授業を進めているが、小学校では右肩上がり学力が向上している。

五ヶ瀬町の取り組みは、町全体の学校を1つの学校として捉え、教育課程も編成し直し、少人数の授業や多人数の授業に分けている。また、先生もそれに合わせて活用できることから、非常に考えた取組みをしており大いに参考になる。

また、中学校の状況であるが、見違えるほど良くなっている。引き続き、今の状況を基本的に保ちながら、健全で明るい学校づくりを目指す。

日野 これからの時代のキーワードは、人材と考える。理想を持って、学校のあるべき姿を進めていただきたい。

また、中学校の状況であるが、見違えるほど良くなっている。引き続き、今の状況を基本的に保ちながら、健全で明るい学校づくりを目指す。

大津留敏加



飯田の住環境整備

どう進める

現在計画中

後詰めていきたい。

飯田地区へ 町営住宅を

大津留 飯田地区の町営住宅は、現在、昭和41年から昭和53年に建設された老朽化した8戸であるが、若い人や住宅を必要とする人が多いことから、平成15年、飯田地区区長会より「飯田に町営住宅建設を求める陳情」が提出され、同年6月議会にて採択しているが、建設計画はどうなっているか。

町長 飯田地区に民間賃貸住宅が、平成17年と平成20年に20戸が建設され、町は家賃の一部を3年間助成している。昨年度新たに、町営住宅長寿命化計画を策定し、老朽化している箇所から建て替えを計画している。戸数、年度については、今



飯田地区の町営住宅

町道釜の口・ 須久保線の改修について

大津留 北方より県道（横断道路）に抜ける間、約150メートルの用地交渉が難航と昨年12月に聞いたが、その後の対策は。また、釜の口より北方下の3区長より幅員拡張の陳情が出ているが、どうするのか。



横断道路につながる町道

町長 北方より県道（横断道路）に抜ける間、当初はバイパスを予定、用地交渉が進まず昨年12月に一時凍結をした。現在、使っている現道の幅員を7メートルに改修を計画、釜の口より北方間は北方交差点より釜の口方面約550メートルの間は用地のめどが付き、改良に向け準備を進める。

小川 克己



国道387号バイパス

今後の見通しは

25年度中に開通

国道387号バイパス工事 今後の見通しは

小川 潜石〜富迫間のバイパス工事が急ピッチで進んでいるが完成時期と今後の富迫以降のルートや工事着手時期、地元説明等今後の見直しは。

25年中の早い時期開通 富迫以降は数年後計画

町長 町田バイパス3・3Kの供用開始は予定どおり25年度中、若干早くなると思う。富迫以降については、現在川底の菅原橋付近から小国側300mの岩取り改良を計画している。富迫から国道210号までの間は、早期の改良を要望する。

高校再編地元校への 志望状況を踏まえた対策は

小川 25年春、地元高校

を希望する中学生は約4割と急激に減っており要因は一括統合に伴い3年次に校地が変ること等が考えられる。このままで推移すると27年時の開校時は、さらに減ることが考えられる。将来に過根を残さないためにも再考が望まれるのではないか。

むずかしい問題で 一流大学への進学率を 上げることも必要

町長 地元校への志願者がどうすれば増えるか難しい問題で、例えば普通科の場合、有名大学への進学率等魅力ある高校づくりが必要と思われる。



改良が待たれる国道387号

あたしのひとこと

わたしの「よみきかせ」

飯田湯沢

古庄 要子さん



私が、飯田の小中学校で読み聞かせボランティアをはじめ、11年が経ちます。当時3人の娘も在学中で、末娘は小学校3年であり、私をその気にさせてくれました。

最初は、1冊の本を何度も読み、聞く子ども達にどのように伝わるか心配しましたが、ただ読むのに一生懸命でした。

回を重ねて行く内に、子ども達がうなずいたり、笑ったりしている姿に、「あー、読み聞かせていいものだなと思いました。

娘達にも「本を読んであげなさい」と常に言ってきました。今では毎日娘と孫と寝る前の読み聞かせが習慣になって来ました。

若いお父さん、お母さん、毎日忙しいとは思いますが、寝る前に10分位を子どもに本を読んであげてはどうでしょうか。自分の読書にもつながります。

平成25年度は、飯田中学校も続合になります。

今年の4月以降は、飯田中学校へ読み聞かせに行く事はないと思いますが、私が読み聞かせできる間はずっと続けていけたらと思います。



活力ある野矢校区

野矢

日野 裕充さん



野矢校区は9集落に169戸480人余りが暮らす田舎の小さな地区ですが、小さいが故に互いの顔が見え、地域全体が強い絆に結ばれた活力のある地域と自負しています。

その原動力を支える組織として大きく二つの組織が上げられます。先ず「野矢ん夢追人」では、盆踊りの復活を目的に結成し20年が過ぎました。

現在では30人程の若者が盆踊りのみならず、小学生とのキャンプや夢追サンタなど、子供達とのふれあい活動や、各種イベント参加、ボランティア活動などを通じて、地域貢献を行ないながら、自らが楽しんでいきます。

また、野矢校区活性協議会では、区長を始め各組織の代表50人が総代となり、食育、地域美化、小学校行事、地域安全等の取組みを行なっています。

このように幅広い世代が互いに協力し、活動できることが、地域の活性化につながり、その根底には拠点となる野矢小学校の存在が大きいと考えます。

小学校が無ければ、若い世代は地元を離れ、限界集落への道を辿ることになるでしょう。

現在、九重町では「日本一の田舎づくり」が進められています。が、田舎や故郷を守り受継いで行く中に於いて、野矢小学校は無くてはならない「拠点の場」であることを、理解して頂ければ幸いです。



思い出のアルバム No.12

傍聴へ どうぞ

次回は3月です



飯田中学校「ハン中」の人文字 (昭和30年代撮影)

◆ お手持ちの なつかしい写真をお貸しください

写真提供：高橋チズ子さん

編集 後記

◆ 「正月や冥土の旅の一里塚
めでたくもありめでたくも無し」
還暦を迎え、その意味が理解
できるようになった。

国会は新たな政権の下、多く
の課題を抱えてスタートしまし
た。進む少子高齢化、町民の
1/3は65歳以上の九重町をど
うすれば明るく住みよい町に出
来るのか、私達13人の議員は多
くの身近な問題に、町民の皆さ
んの声を聴き取り組みます。そ
の足跡を記した議会だよりを、
より愛される広報誌作りに向け
てがんばりますので宜しくお願
いいたします。

藤原 三治



- ・ 広報委員長 坂本 憲治
- ・ 副委員長 藤原 三治
- ・ 委員 日野 康志
- ・ 委員 大津留敏加
- ・ 委員 池部 俊慈
- ・ 委員 佐藤 明郎